

第23回狭山新茶と花いっぱいまつり

4月29日(木)、狭山市役所において『第23回狭山新茶と花いっぱいまつり』が開催されました。

これは、狭山市の特産物である「狭山茶」の振興と、緑と花いっぱいの豊かなまちづくりを目的に、狭山新茶と花いっぱいまつり実行委員会主催、いるま野農業協同組合・狭山商工会議所狭山市観光協会の後援で行われま



した。毎年恒例となつている会場内茶園での1日2回の茶摘み体験では、子供から高齢者までおよそ300人が体験を行い、かごいっぱいのお茶を摘んでいました。庁舎前のスペースでは、「狭山茶ばやし若茶」の皆さんの狭山茶ばやしの踊りや、和太鼓さやまげやき会の勇ましい演奏が披露され、来場者を魅了。また、会場内には狭山茶関連や花の販売、食べ物など19のブースが並び賑わいをみせていました。そして、狭山市手揉み茶保存会による手もみ製茶の実演も行われ、多くの見物客が集まりました。

市役所一般駐車場で、狭山市植木生産組合により、花の無料配布が行われ、ベチュニアやバーベナなど1400鉢が用意され、長蛇の列ができていました。新茶販売では、今年天候不順で新芽の成長が遅く、お祭り用のお茶の製造が間に合う心配されましたが、狭山市茶業協会全員で少しずつ茶葉を持ち寄り、生葉で100kg、製品でおよそ25kgが用意され、新茶が20g500円、手もみで丹念に製茶された新茶は8g500円で販売され、完売となりました。小さな芽ですが、味の詰まった甘い大変良いお茶ができたと言っています。

乳がん市民公開講座

4月17日(土)、狭山市市民会館で『乳がん市民公開講座』が行われました。

これはアストラゼネカ株式会社主催、狭山市・狭山市薬剤師会・狭山市歯科医師会等の後援で、乳癌について理解してもらい、検診の大切さを知ってもらうことを目的に行われました。

講演は「乳がんをもっと知ろう」と大切な人を守るためにと題し、社会医療法人財団石心会 狭山病院外科・乳腺外科・児玉ひとみ外科医長が講演。

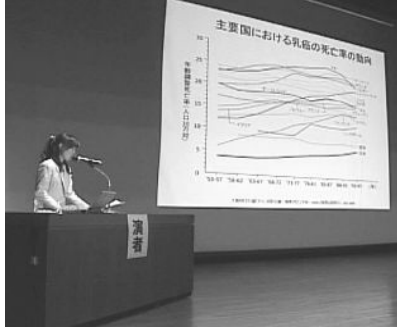
児玉氏は東京女子医科大学卒業、日本外科学会専門医・日本内科学会専門医・日本泌尿科学会専門医・日本乳癌学会認定医等の資格を持ち、平成21年4月より石心会狭山病

院に勤務しています。講演では乳癌の状況についての説明があり、現在日本人女性の16人に1人が乳癌にかかり、現在では癌の中でもっとも多い癌であり、また欧米では乳癌での死亡率が減少しているのに対し、日本では年々増加していることなどを報告し、その原因の一つに検診率の違いを挙げ、「欧米では8割の方がマンモグラフィ検診を行っているのに対し、日本では2割も満たないのです」と、検診の重要性と早期発見を訴えました。

また「最も大切な事は乳癌について正しく知る事」と話し、乳癌についての知識・治療方法・自己検診法等を説明しました。

講演後には質疑応答の時間が設けられ、参加者からの質問に丁寧に答えていました。

この日、会場には165名が訪れました。また秋頃に「子宮頸がんワクチン」についての講演を開催する予定です。



この日の模様は後日、ちやっぴい撮影隊参加で放送する予定です。

智光山公園子ども動物園でヒツジの毛刈り

5月4・5日の両日、智光山公園子ども動物園でヒツジの毛刈りが行われました。

ヒツジを覆っている厚い毛は自然に抜け変わることはないため、夏を迎えるまでに人の手で刈ってあげなければなりません。会場となったふれあい広場には、およそ300名の来場者で賑わいました。

はじめに、職員による羊のワンポイントガイドが行われ、ヒツジの種類や生態、毛刈りについてのレクチャーがありました。同園では、コリテール(ニュージーランド)2頭、サフォーク(イギリス)1頭の計3頭を飼育しています。この日毛狩りしたのはサフォーク種でメスのココちゃん(8才)です。

界で2番目に背が高く、その高さはおよそ170センチ。翼は退化して20センチほどの大きさしかないため飛ぶことはできませんが、強い足を持ち、危険を感じた時にはおよそ時速50キロで走ることができま



ます。同園では、今まではすっかり園にも慣れてきているので多くの市民に來園してほしいとのこと。刈られた毛に触った来場者からは、「ふわふわして、柔らかい」などの感想が聞かれました。

同園では、今まではすっかり園にも慣れてきているので多くの市民に來園してほしいとのこと。

若武者になつたこどもたち



5月4日・5日、市立博物館で『若武者になろう』が開催されました。端午の節句にちなみ開催されている人気のイベントで、こどもの健やかな成長を願って行われており、着付けは博物館の職員が行います。

甲冑は、頭にかぶる「カブト」と身体にまとう「ヨロイ」、付属具の小具足で構成され、戦場での攻撃から身体を保護するために着用した武器です。

今回、子ども達が着た甲冑の重量は全部で12kg。始めは、座ったままの姿勢で小具足などをつけ、最後にヨロイを付け、靴を履きカブトを被り立ち上がると、その重みに負けまいと踏ん張る子や、思ったように身動きがとれず後ろによろけてしまいくらいの子供もいました。

我が子、孫の勇姿を映像におさめようと、会場は大変賑やかな様子で、甲冑を身に纏った子ども達は堂々とした姿でいました。今年、2日間で75組が体験しました。

智光山公園子ども動物園 2羽のエミューの展示

4月6日(火)、智光山公園子ども動物園は2羽のエミューの展示を始めました。このエミューは千葉市動物公園から3月26

日に來園したものです。エミューはヒクイドリ目エミュー科の鳥類で、オーストラリアに生息、同国の国鳥になっています。

